

平成 25 年
3 月 27 日

病害虫発生予報 4 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

水田に農薬を使用したときは、散布後一週間は
掛け流しや落水をしないようにしましょう。

< 目 次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ナシ：黒星病	1
【防除所レポート】：ナシ黒星病の発病葉率と前年の秋型病斑	2
イチゴ：ハダニ類	2
促成ピーマン：うどんこ病	3
促成・半促成ピーマン：アザミウマ類	3
促成キュウリ：うどんこ病，アザミウマ類	4
促成トマト：灰色かび病	5
促成トマトの黄化葉巻病について	5

【その他の病害虫】

麦類，イチゴ，促成ピーマン，促成キュウリ，メロン，春ハクサイ，春レタス

【防除所レポート】：麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！	7
--------------------------------	---

II. 今月の気象予報

本文に記載されている薬剤は平成 25 年 3 月 13 日現在のものです。

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
早い	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 昨年 10 月下旬の調査で、秋型病斑の発病度及び発生地点率ともに平年より高かったため、菌の越冬量は平年より多いと予想される。
- ② 笠間市におけるナシ（豊水）の出蕾は平年より 10 日早い。このため、ナシの開花時期も平年より早くなると予想され、果そう基部での発生時期も平年より早いと予想される。

[防除上注意すべき事項]

- ① 黒星病菌は落葉上で子のう胞子を形成し、第一次伝染源となる。笠間市では既に子のう胞子が飛散し始めているので、圃場内に落葉が残っている場合はロータリーですき込む等、適切に処分する。
- ② 芽基部の病斑は葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める等適切に処分する。
- ③ りん片脱落直前及び落花期の DMI 剤散布は特に重要なので、圃場をよく観察し、ナシの生育に合わせて確実に実施する。
- ④ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に、散布圧や風圧を抑えて丁寧に散布する。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

防除所レポート [ナシ黒星病の発病葉率と前年の秋型病斑]

- ①昨年 10 月下旬，県内 18 圃場でナシ黒星病の秋型病斑調査を行ったところ，平均発病度※は 1.6（11 年中 1 位），発生地点率は 94%（11 年中 1 位）であった。
- ②前年の秋型病斑の発病度が高いと，4～5 月の黒星病の発病葉率も高くなる傾向にある（図）。
- ③平成 20 年以降は，4～5 月の発病葉率または秋型病斑の発病度が高い年が多い。

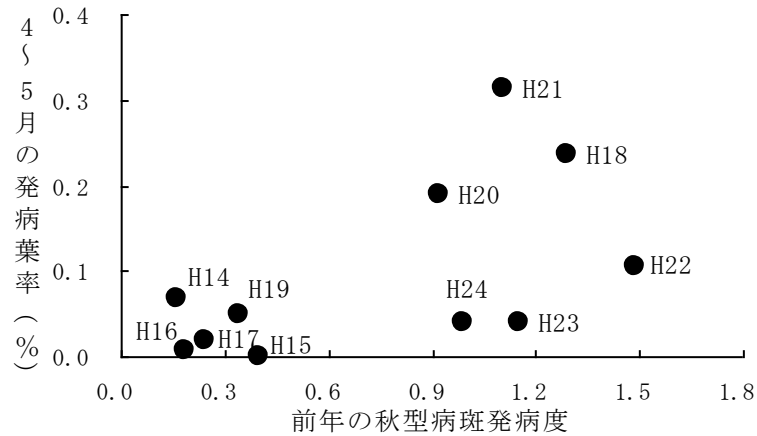


図 4～5 月の発病葉率と前年の秋型病斑発病度
(年数は 4～5 月の発病葉率調査年)

※ 発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は 0 で最大値は 100 となる。

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3 月下旬現在，被害葉率(本年値 41.2%，平年値 9.9%)，発生地点率(本年値 100%，平年値 50%)ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，気門封鎖剤を除き同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミツバチやカブリダニ剤等を使用している圃場では，薬剤の選定に十分注意する。

促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在、発病度*は平年より高く（本年値 12.3，平年値 4.2），発生地点率は平年よりやや低い。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため，発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため，できるだけ葉は取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。
- ④ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合，天敵への影響に十分注意する。

促成・半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在，促成ピーマンにおける寄生花率は平年よりやや高く（本年値 31.5%，平年値 28.2%），発生地点率は平年並である。
- ② 3月下旬現在，半促成ピーマンにおける寄生花率は平年並（本年値 20.8%，平年値 17.2%），発生地点率は平年より高い。
- ③ 促成ピーマンの一部の圃場で，ミナミキイロアザミウマによる被害果が発生している。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。また，各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は，薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合，天敵への影響に十分注意する。

促成キュウリ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在、被害葉率（本年値 13.0%、平年値 7.2%）、発生地点率（本年値 63%、平年値 50%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ葉は取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在、ミカンキイロアザミウマの被害葉率（本年値 2.1%、平年値 0.3%）、発生地点率（本年値 63%、平年値 6%）ともに平年より高い。
- ② 3月下旬現在、ミナミキイロアザミウマの被害葉率（本年値 2.8%、平年値 0.1%）、発生地点率（本年値 63%、平年値 3%）ともに平年より高い。
- ③ 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。また、ミナミキイロアザミウマはウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤を散布する。

促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在、発病果率は平年並（本年値 0.14%，平年値 0.29%）、発生地点率は平年よりやや少ない（本年値 18%，平年値 35%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので、換気、送風、暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪い花卉や、罹病部は早急に取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。
- ⑤ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で、丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ⑥ 曇雨天が続くと急激に発生が増加することがあるので、今後の天候に十分注意する。

促成トマトの黄化葉巻病について

[現在の状況]

- ① 3月下旬現在、平年並～やや多い発生である。なお、圃場により発生量にばらつきがある。

[防除上注意すべき事項]

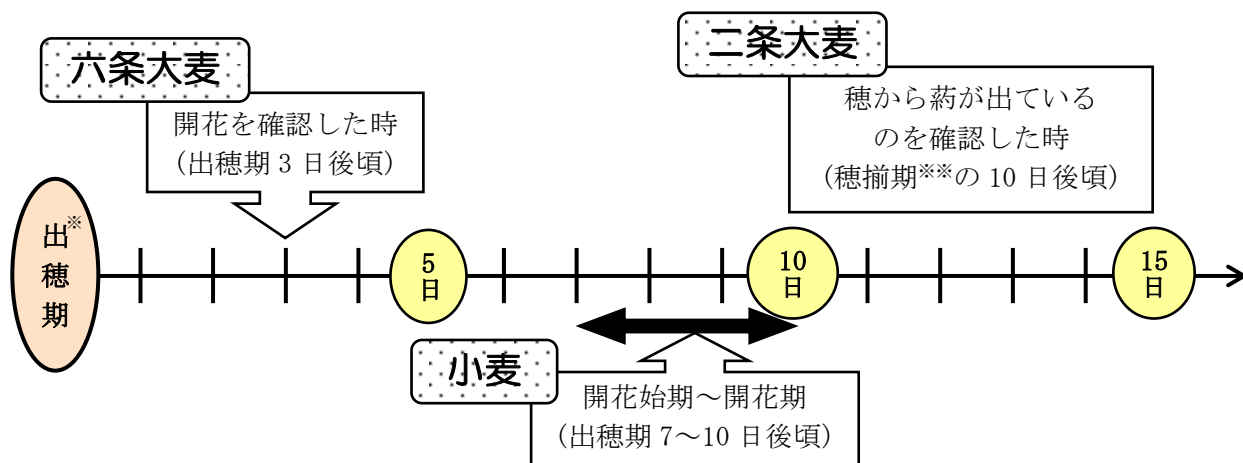
- ① 発病が認められた株は、伝染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、株を腐熟化する等してから処分する。
- ② ハウスの開口部には0.4mm目合い以下の防虫ネットを設置し、タバココナジラミのハウス内の侵入、及びハウス外への飛び出しを防止する。
- ③ 媒介虫であるタバココナジラミを防除する際は、寄生する葉裏に十分薬液がかかるよう、下方から吹き上げるよう丁寧に散布する。
- ④ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
麦類	赤かび病	発生時期：やや遅い (大麦) 発生量：－	農研速報(3月22日発行)によると、龍ヶ崎市ではカシマムギ(大麦)の出穂期は平年より3日遅くなると予想されている。麦の生育状況を正確に把握して、適期防除を行う(防除所レポート参照)。
イチゴ	炭疽病	発生量：やや多い	3月下旬現在、平年よりやや多い発生である。発病株は抜き取り適切に処分する。
	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	3月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
促成ピーマン	斑点病	発生量：やや多い	3月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
促成キュウリ	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	3月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
メロン	つる枯病	発生量：平年並	3月下旬現在、平年並の発生である。
春ハクサイ	白斑病	発生量：平年並	3月下旬現在、平年並の発生である。
春レタス	菌核病	発生量：平年並 ～やや少ない	3月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。

麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！

麦類赤かび病は予防的防除が重要である。防除適期は、二条大麦では穂揃期の10日後頃に穂から葎が出ているのを確認した時、六条大麦では出穂～穂揃期に開花を確認した時、小麦では開花始期～開花期に当たる(図)。



※出穂期：圃場の50%程度の茎が出穂した日を示す。

※※穂揃期：圃場の90%程度の茎が出穂した日を示す。

図 麦類赤かび病の防除適期

農研速報(3月22日発行)によると、龍ヶ崎市では、カシマムギの出穂期は平年より3日遅くなると予測されている。表1及び2に、3月中下旬における農業研究所及び防除所の調査圃場における予測出穂期と防除適期を示した。また、表3には主な防除薬剤を示した。播種時期や麦種によって、予測される出穂期や防除適期が異なるため、圃場毎に生育ステージを確認して、効果的な薬剤防除を実施することが重要である。

赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適条件は、「日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上で、湿度 80%以上か降雨日とその翌日」とされている。飛散好適条件が続く場合は、1回目の薬剤散布後7～10日に2回目の散布を行う。薬剤を選定する際は、使用回数や収穫前日数に十分注意する。

表1 農業研究所(水戸市, 龍ヶ崎市)における予測出穂期と赤かび病の防除適期

麦種	品種	地点	播種期	予測出穂期 ¹⁾²⁾	予測防除適期 ³⁾
六条大麦	カシマゴール	龍ヶ崎市	11月 9日	4月12日	4月15日
			11月 9日	4月14日	4月17日
小麦	さとのそら	水戸市	11月 7日	4月23日	4月30日～5月 3日
			11月20日	4月26日	5月 3日～5月 6日
		龍ヶ崎市	11月 9日	4月19日	4月26日～4月29日
			11月21日	4月24日	5月 1日～5月 4日

1) 予測出穂期は、農研速報(3月12日, 3月22日発行)より引用した。

2) 水戸市では出芽後の日平均気温から、龍ヶ崎市では幼穂長から予測した。なお、カシマゴール及びさとのそらの出穂期予測は暫定版の予測式を用いた。

3) 予測防除適期は、六条大麦は出穂期の3日後、小麦は出穂期の7～10日後とした。

表2 幼穂長から予測した麦類の出穂期と赤かび病の防除適期

(平成25年3月25日現在)

麦種	品種	地域	調査地点	播種期	予測 出穂期 ¹⁾²⁾	予測 防除適期 ³⁾
六条 大麦	カシマゴール	県央	水戸市小林町	10月30日	4月19日	4月22日
			那珂市飯田	11月13日	4月29日	5月2日
		県南	河内町源清田	11月6日	4月10日	4月13日
			常総市三坂町	11月10日	4月13日	4月16日
	カシマムギ	県西	桜川市真壁町原方	12月10日	5月4日	5月7日
			筑西市小栗	12月10日	5月4日	5月7日
		県南	八千代町高崎	12月15日	5月3日	5月6日
			つくば市大形	11月10日	4月27日	5月4日～7日
小麦	さとのそら	県南	つくば市上菅間	11月21日	5月3日	5月10日～13日
			つくばみらい市市野深	11月25日	5月2日	5月9日～12日
			桜川市加茂部	11月20日	5月5日	5月12日～15日
		県西	結城市結城	11月22日	5月2日	5月9日～12日
			筑西市二木成	11月28日	5月4日	5月11日～14日
			常総市三坂町	11月29日	4月30日	5月7日～10日
			八千代町高崎	12月1日	5月3日	5月10日～13日

1) カシマムギの出穂期予測は平成18年度普及に移す成果(農業研究所)の計算式を用いた。カシマゴール及びさとのそらについては暫定版の予測式を用いた。

2) 予測の際、平均気温は、幼穂長調査日(3月18～22日)から3月24日までは各調査地点付近のアメダス観測所の実測値を利用し、3月25日以降は各観測所の平年値(1981～2010年)を利用した。

3) 予測防除適期は、表1と同様に予測した。

※予測値は現時点での計算値であり、今後の気象条件等によって変動する可能性もあるので注意する。

表3 麦類の赤かび病に効果のある主な薬剤(平成25年3月13日現在)

薬剤名	麦種	希釈倍数	収穫前日数－ 本剤の使用回数	有効成分	系統名	無人ヘリでの 登録の有無 ¹⁾
トップジンM 水和剤	麦類 (小麦を除く)	1,000～ 1,500倍	30-3 (出穂期以降は 1回以内)	チオファネート メチル	ベンゾイミダ ゾール系	無 ²⁾
	小麦*		(出穂期以降は 2回以内)			
ストロビー フロアブル	麦類 (小麦を除く)	2,000～ 3,000倍	14-3	クレソキシム メチル	ストロ ビルリン系	無
	小麦*					
チルト乳剤25	大麦	1,000～ 2,000倍	21-1	プロピコナ ゾール		有
	小麦		3-3			
シルバキュア フロアブル	大麦	2,000倍	14-2	テブコナゾール	DMI 剤	有
	小麦*		7-2			
ワークアップ フロアブル	大麦*	2,000倍	14-2	メトコナゾール		有
	麦類 (大麦を除く)*					無 ³⁾

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用方法・注意事項等を必ず確認のうえ、周辺作物への飛散に留意してください。

1) 無人ヘリ散布を行う場合は、希釈倍数や収穫前日数等が異なるので十分注意する。

2) トップジンM水和剤と有効成分が同じであるトップジンMゾルは麦類(小麦を除く)及び小麦で無人ヘリの登録がある。

3) ワークアップフロアブルと有効成分が同じであるワークアップS乳剤は麦類で無人ヘリの登録がある。

※印を付けた薬剤ではブームスプレーヤーによる専用ノズルを用いた少量散布も可能である。使用時には登録内容を確認すること。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 3月23日から4月22日)

気象庁(3月22日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	30	40
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

<1週目の予報> 3月23日(土曜日)から3月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<2週目の予報> 3月30日(土曜日)から4月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 4月6日(土曜日)から4月19日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。